

ずーむあっぷ ながさき人

今回は、「未来のながさきの街づくり」を担う現場でガンバル若手のみなさんをご紹介します。



株式会社 上滝
土木部 唐田 泰貴 さん

「地図に載る仕事」にやりがい
何よりも安全を優先した
現場作りを目指して

現在は小桝地区の岸壁修繕、補強工事を担当。工事がスケジュール通りに進んでいるか、作業の経過や安全確認など、現場管理を行っています。「天候に左右されますし、海のそばなので潮の満ち引きを計算しながら作業を進めているので、安全を何よりも優先しつつ、安心して作業ができるように管理をしています」と唐田さん。

この仕事に就ききっかけは、大学で工学部へと進み、橋や道路の建設など、土木のスケールの大きさに魅力を持ったことが始まり。「自分がやった仕事の後世まで残る。地図に載る仕事ができることにやりがいを感じています」と語ります。「橋や道路など、担当するものが違えば危険箇所もすべて変わります。「未経験だから分からない」は通用しません。毎回違う現場に対応することは大変ですが、いつの日か一人前と呼ばれるようになりたいです」。



星野建設 株式会社
土木部 平坂 張菜 さん

自分で考えて仕事ができる人へ
もっと経験を積んで成長したい

大学、大学院では農学部で地盤の研究をしていたことから、建設の世界へ足を踏み入れたという平坂さん。入社直後はリフォーム担当。現場管理の部署へと異動になった当初は、専門用語に不慣れだったため「分からないことが分からない状態」の時も。「日々勉強しながら、少しずつですが自分で考えて仕事ができるようになってきました」と語ります。

現在は雲仙市の鬘串大橋と目付石大橋の落橋防止構造工事など現場管理を担当。図面通りに作業が進んでいるか計測し、撮影した写真を資料にまとめるデスクワークも大切な仕事の1つ。「社内には他にも女性スタッフがいます。体力面で男性にかなわない時もありますが、暑い日などは声をかけてくれる人がいたり、働きやすい環境です」と笑顔。今後の目標は「いろんな現場を担当して、経験を積んで成長したい」と頼もしい言葉が返ってきました。